

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

## 笠間の暮らして出会った、 小さなエピソードたち

プロフィール 地域おこし協力隊 **三宅 輝明** 隊員 (29歳)

2024年5月より笠間市の地域おこし協力隊として着任。笠間市の特産品である栗を活用し、笠間栗ファクトリー株式会社と連携して、栗製品の品質向上、商品開発、販売促進などの支援を行っています。活動を通じて、地域の活性化につながるような「笠間の栗のブランド化」に貢献することを目指しています。



三宅 隊員 (千葉県から移住)

● **何気ない会話から教わった、お米の保存**  
笠間での暮らしや地域と関わる中で、「知らなかった」「なるほど」と思うことがたびたびあります。一つひとつはささやかですが、どれも地域との関わりや、日々の暮らしの中で出会った、印象に残るひとコマばかり。これまでため込んできた「小さなエピソード」をまとめてお届けします。

● **何気ない会話から教わった、お米の保存**  
地域の方から、お米や手作りのお弁当を分けていただくことがあります。そんなやりとりの中で、お米の保存方法の話になり、「精米したお米はペットボトルに入れて冷蔵庫で保存するのがいい」と教わりました。常温で袋のままだと湿気や酸化が進みやすく、特に気温が高い時期は、味が落ちやすくなります。ペットボトルなら空気が湿気を防ぎやすく、害虫対策にもなること。さらに、百円ショップにペットボトル移し替え専用じょうごがあることも教わり、さっそく試してみました。



ペットボトルにお米を保存

お米をこぼさず移し替えられ、残量もひ

と目で分かり、計量もしやすく想像以上に便利。冷蔵庫にもコンパクトに収まるのもうれしいポイントです。ちなみに、2リットルのペットボトルには、およそ11合(約1.8kg)のお米が入ります。地域の方と会話する中で教わった、暮らしをちょっぴり豊かにしてくれる知恵です。

● **栗と向き合う日々で知った、栗の正体**  
栗に魅せられ、栗を愛してやまない身として、栗と日々向き合っている中で、栗にまつわる豆知識も耳に入ってきました。

● **栗と向き合う日々で知った、栗の正体**  
私たちが普段「栗の実」と呼んでいる部分。実は、植物学的には「種」にあたるのだそうです。外側の固い皮(鬼皮)や、その内側にある薄い皮(渋皮)は、果肉にあたる部分。そして、中にあるホクホクした部分こそが「種」。つまり、私たちは、その種をおいしくいただいている、というわけです。

● **毎日耳にするチャイム**  
笠間に引っ越してきたとき、防災行政無線の定時試験放送のチャイムが流れ、「あ、上を向いて歩こうだ。珍しいな」と思ったのをよく覚えていました。



栗の実

● **毎日耳にするチャイム**  
畑での作業や、加工場で黙々と手を動かしている最中に正午のチャイムが聞こえてくると、「もうお昼か」「少し手を止めようかな」と、自然と一区切りを意識します。前かがみで土と向き合っているところに流れてくる「上を向いて歩こう」は、文字どおり顔を上げさせてくれる合図のようにも感じられます。「ここまでやったら一度休もう」「午後またがんばろう」——そんなポジティブな気持ちになってほしいという意味が込められているのかな、と選曲の理由を妄想していました。

● **毎日耳にするチャイム**  
いつの間にかこのまちのチャイムは、日々の作業を静かに見守ってくれる存在になっていきます。



フェイスブックもご覧ください

問 企業誘致・移住推進課(内線592)